



# 末吉小だより

横浜市立末吉小学校

学校だより

令和4年 11月号

## 季節を感じて

校長 高山 和宣

10月17日に末吉カップを行いました。コロナウイルス感染症拡大防止の観点から学校評価を行う地域の方を除いて、多くの地域の皆様および学校に関わっている皆様にはお越しいただくことができませんでした。また、保護者の皆様にも制限をかけた参観となりました。子どもたちもたくさんの方に見ていただきたかったと思います。心苦しくまた申し訳なく感じております。

当日の子どもたちの演技は、どの学年もとても素敵で、嬉しそうにポーズを決めた瞬間、会場から大きな拍手がわき起こりました。「練習は嘘をつかない」と努力を重ねてきた子どもたちです。何も努力をしなければ嬉しさも悔しさもあまり感じませんが、きっとこの末吉カップの喜びや充実感は努力をした分大きかったのだと思います。

各担任も、「一人ひとりの成長がよく分かった末吉でした。それが、なにより嬉しい。」と振り返っていました。

また、末吉カップのボランティアにはたくさんの皆様にお越しいただきました。おかげさまで滞りなく充実したものになりました。中心になって進めてくださったPTA役員の方々をはじめお手伝いいただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

さて、寒い日も多くなってまいりました。子どもたちは今、澄みわたった秋のさわやかな空気を胸一杯に吸い込み、思い思いに秋を満喫しているようです。暦の上では二十四節気の「霜降」を迎え、もうすぐ「立冬」がやってきます。

「霜降」は、「露が冷気によって霜となって降り始める」頃と言われているように、まさに、この頃の朝の冷え込みは間近に迫った冬の到来を感じさせています。「木枯らし」と呼ばれる寒い北風が吹きだすのもこの頃です。暖房の準備を急いでいるご家庭も多いのではないかと思います。

都会ではあまり季節を感じる人が少ないと言う人もいます。確かに季節を感じるものはハロウィンの飾りであったり、クリスマスツリーであったりと人のつくったもので、それも10月の半ばから店頭には並ぶことさえあります。

しかし、学校では登校時に門に立っていると、「先生、ドングリ見つけたよ。先生にあげる。」など子どもたちは笑顔以外にもいろいろなものをプレゼントしてくれます。忙しい大人たちより、子どもたちの方がもっと身近な季節を感じとっているのかもしれない。

日本には四季がありその中で文化が育ち、人が育ってきました。食教育や心の教育とも深く結びついています。学校では、生活科や給食をはじめ、様々な場面で学習に季節を取り入れて指導を行っています。今後もどの子にとっても充実した学校生活を送れるよう教職員一同力を合わせて努力してまいりますので、これまで同様、保護者や地域の皆様からのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

コロナウイルスも気になるころですが、季節が冬に向かって、気温の低い日が多くなります。皆様どうぞ健康管理には十分ご留意なさってください。

